

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2
学年	2年	類型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書(出版社)	家庭総合 ～自立・共生・創造～ (東京書籍)				
副教材(出版社)	家庭科ノート(愛媛県高等学校家庭科教育研究会編)				
授業の概要	「人の一生と家族・家庭及び福祉」「衣食住の生活の科学と文化」「持続可能な消費生活・環境」「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の4項目で構成する。これらの内容については、実践的・体験的な学習活動を中心とし、相互に関連を図りながら学習する。				
授業の目標	1 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、衣生活、消費生活に関する知識と技術を総合的に習得する。 2 学習した知識や技術を生かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 3 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
年間学習計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1学期	○高校の家庭科について 第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第9章 経済生活を営む ○ホームプロジェクトについて	・家庭科で何をどのように学ぶか、学習活動について知る。 ・各ライフステージの特徴と課題を理解し、生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめる。 ・固定的な性別役割分業意識を見直し、男女が相互に協力して家庭を築き、家族関係をつくる必要性を学ぶ。 ・家族・家庭の基礎的な法律を学習し、現在の動きを知る。 ・家事・職業労働の特徴からワークライフバランスを考える。 ・家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。 ・国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 ・契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 ・消費者の権利と責任を理解する。 ・持続可能な生活について考える。 ・ホームプロジェクトの計画		
	2学期	第7章 衣生活をつくる	・ホームプロジェクトの発表 ・平面構成と立体構成の違いを学ぶ ・被服製作の基本事項を確認し、自分に合った被服の製作ができる。 ・被服の様々な役割を理解する。 ・被服材料の特徴を理解し、被服に適した選択や保管方法を知る。 ・日本の衣生活の変遷や日本の衣文化を学ぶ。		
	3学期	第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を共に生きる 第5章 共に生き、共に支える 第10章 持続可能な生活を営む	・出産前後の健康管理と子どもの発達の様子・発達段階を知る。 ・人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ。 ・遊び、基本的な生活習慣の形成、健康管理について学ぶ。 ・愛着の形成と親としての成長を理解する。 ・高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢期の特徴を知り、個人差が大きいことを理解する。 ・社会保障の考え方について理解する。 ・家庭生活と地域福祉について理解する。 ・身近な生活と環境との関わりについて理解する。		
観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣生活、消費生活・環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	様々な人々と協働し、より良い社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	ビジネス・マネジメント	単位数	2
学年	2年	類型	情報ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	ビジネス・マネジメント(実教出版)				
副教材(出版社)	ビジネス・マネジメント 準拠問題集(実教出版)				
授業の概要	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を身に付ける。				
授業の目標	1 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を理解し、合理的・創造的に解決する力を養う。 3 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第1章 ビジネスの創造 第2章 ビジネスの組織化	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスにおけるマネジメントの概要を理解する。 ・マネジメントについての意識と意欲を高め、組織の一員として他者と協働する力を身に付ける。 ・ビジネスの創造について理解する。 ・組織のマネジメントについて、企業における事例と関連付けて考える。 ・組織のマネジメントに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、組織の管理と活性化の方策を考案する。 		
	2 学期	第3章 経営資源のマネジメント 第4章 ビジネスの変革	<ul style="list-style-type: none"> ・経営資源のマネジメントに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、経営資源の管理と活用の方策を考案する。 ・ビジネスの創造と展開について企業における事例と関連付けて理解し、科学的な根拠に基づいてビジネスの創造と展開に関する計画を立案して実施し、評価・改善する力を身に付ける。 ・ビジネスの創造と展開について自ら学び、プロジェクトを適切に管理する力を身に付ける。 		
	3 学期	第5章 ビジネスと社会	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の秩序と責任について理解する。 ・学習してきた内容を踏まえたうえで、新規事業について計画する力を身に付ける。 		
観点 別 評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役立つマネジメントに関する知識を身に付けている。	ビジネスにおけるマネジメントの知識を活用し、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向やマネジメントの理論、企業の事例などの科学的な根拠に基づいて課題を解決しようと考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマネジメントについて学ぶ態度及び、組織の一員として自己の役割を認識したうえで経営資源のマネジメントや新たなビジネスの創造と展開に責任をもって取り組もうとしている。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	財務会計Ⅰ	単位数	2	
学年	2年	類型	情報ビジネス科B類型			
教科書(出版社)	新財務会計Ⅰ (実教出版)					
副教材(出版社)	完全段階式標準検定簿記問題集2級・会計 (東京法令出版)					
授業の概要	財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を身に付ける。					
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 財務会計の意義や制度について理解する。 3 会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。 					
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)			学習目標		
	1 学期	第1編 財務会計の基礎 第1章 企業と会計 第2章 企業会計制度と会計法規 第2編 貸借対照表 第3章 貸借対照表のあらまし 第4章 資産の意味・分類・評価 第5章 流動資産 part1 当座預金 第6章 流動資産 part2 棚卸資産 第7章 固定資産 part1 有形固定資産 第8章 固定資産 part2 無形固定資産 第9章 固定資産 part3 投資その他の資産			<ul style="list-style-type: none"> ・利害関係者への適正な会計情報の提供及び、提供された会計情報の活用を行えるようにする。 ・企業会計の意義と役割、財務会計の機能及び会計法規と会計基準について学び、財務会計の概要について理解する。 ・棚卸資産とその他の流動資産の意味を理解し、棚卸資産の期末評価の種類と方法について説明ができるように知識を技術を習得する。 	
	2 学期	第10章 負債の意味と分類 第11章 流動負債 第12章 固定負債 第13章 純資産の意味と分類 第14章 資本金 第15章 資本剰余金 第16章 利益剰余金 第17章 自己株式 第18章 新株予約権 第19章 貸借対照表の作成 第3編 損益計算書 第20章 損益計算書のあらまし 第21章 損益計算の意味と基準			<ul style="list-style-type: none"> ・流動負債の意味を理解し、適切な会計処理ができるような知識と技術を習得する。 ・損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。 	
	3 学期	第22章 売上高 第23章 売上原価、販売費および一般管理費 第24章 営業芸収益・営業外費用 第25章 特別利益・特別損失 第26章 損益計算書の作成 第27章 その他の財務諸表 第4編 その他の会計処理 第28章 役務収益・役務原価 第29章 外貨建取引 第30章 税効果会計			<ul style="list-style-type: none"> ・財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・役務収益と役務原価の意味を理解し、基礎について学び、適切な会計処理ができる知識と技術を習得する。 	
観点別 評価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	会計情報を利害関係者に提供する能力と態度及び提供された会計情報については、ビジネスの諸活動に適切に活用する能力と態度を身に付けている。		会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。		財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。	
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教科	商業	科目	原価計算	単位数	3
学年	2年	類型	情報ビジネス科		
教科書(出版社)	原価計算(東京法令出版)				
副教材(出版社)	完全段階式標準検定簿記問題集全商1級原価計算(東京法令出版)				
授業の概要	製造業における工業簿記の記帳法と、原価計算の基本的な考え方、知識と技術を習得する。また、原価計算によって得られる情報を効果的に活用するための能力と態度を育てる。				
授業の目標	1 原価計算に関する基本的・基礎的な知識と技術を身に付ける。 2 製造業において行われる取引・活動を計数的に把握し、活用する学習を通して、原価に対する理解を深める。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第I編 原価と原価計算 第1章 原価の概念 第2章 原価計算の特色としくみ 第II編 原価の費目別計算 第1章 材料費の計算 第2章 労務費の計算 第3章 経費の計算 第III編 原価の部門別計算と製品別計算 第1章 個別原価計算 第2章 部門別個別原価計算	・原価の概念、原価計算の目的、製造業における簿記の特色としくみについて学び、原価計算の概要について理解する。 ・材料費、労務費及び経費の計算と記帳をとおして、原価の費目別計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・個別原価計算、部門別個別原価計算、総合原価計算について学び、原価の部門別計算と製品別計算の行うための基礎的な知識と技術を習得する。		
	2 学期	第3章 総合原価計算 第IV編 内部会計 第1章 製品の完成と販売 第2章 本社・工場会計 第3章 製造業の決算 第V編 標準原価計算 第1章 標準原価計算の目的と手続き 第2章 原価差異の原因別分析 第VI編 直接原価計算 第1章 直接原価計算の目的と財務諸表の作成 第2章 短期利益計画への活用	・製品の完成・販売と本社・工場間の取引の記帳方法及び製造業の決算について学び、製品の完成・販売に関する会計処理と決算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・標準原価計算の目的と手続き、原価差異の原因分析及び損益計算書の作成をとおして、標準原価計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・直接原価計算の目的と損益計算書の作成及び短期利益計画について学び、直接原価計算の有用性について理解する。		
	3 学期	総合演習 発展的な内容	・原価計算の知識と技術の定着を図る。		
観点別 評価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連付けられビジネスの様々な場面で役に立つ知識と技術が身についている。		原価計算をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、原価計算に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してより良く課題に対応する力が身についている。		他者と信頼関係を構築して積極的にかかわり、原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などによる原価情報の提供と効果的な活用と責任を持って取り組む態度が身についている。
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	ソフトウェア活用	単位数	3
学年	2年	類型	情報ビジネス科		
教科書(出版社)	ソフトウェア活用(実教出版)				
副教材(出版社)	情報処理検定模擬試験問題集(ビジネス情報1級)(実教出版)				
授業の概要	企業活動を円滑に行うために、今日においてはソフトウェアを活用することが必要不可欠となっていることから、活用するために必要な能力・態度を身に付ける。				
授業の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を育成することを目指す。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第1章 企業活動とソフトウェアの活用	・身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考え、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。		
		第2章 情報通信ネットワークの活用	・ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、それを活用する機器類の基礎的な利用方法や、障害等に対処するための基本的な技術を身に付ける。		
		第3章 表計算ソフトウェアの活用	・表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計方法や分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。		
2 学期	第4章 データベースソフトウェアの活用	・リレーショナルデータベースの特徴や基本的な機能を理解するとともに、データベースソフトウェアを活用するための知識と技術を身に付ける。 ・SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。			
	第5章 業務処理用ソフトウェアの活用	・それぞれの業務処理用ソフトウェアを活用することの利点と、各ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。			
3 学期	第6章 情報システムの開発		・情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について実務に即して理解するとともに、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発と関連付けて理解を深める。		
観点別 評価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	企業活動におけるソフトウェアの活用について、実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。		企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を課改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	プログラミング	単位数	2
学年	2年	類型	情報ビジネス科B類型		
教科書(出版社)	プログラミング(東京法令出版)				
副教材(出版社)	全商 情報処理検定模擬試験問題集(プログラミング1級)(実教出版)				
授業の概要	ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、プログラムと情報システムの開発に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことで、組織の一員としての役割を果たす能力と態度を身に付ける。				
授業の目標	1 プログラムと情報システムの開発について実務に即した体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的根拠に基づき創造的に解決する力を身に付ける。 3 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協同的に取り組む態度を身に付ける。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第4章 手続き型のプログラミング 第4節 配列の利用 第5章 プログラムと情報システムの開発 第1節 情報システムの開発手順とシステムの開発	・配列を利用した各種のプログラミング技法を身に付けるとともに、マクロ言語によるプログラムで実装する方法を理解する。 ・情報システム開発の手順の全体像を理解し、テストの流れと開発手法について特徴を理解する。		
	2 学期	第2節 プロジェクト管理 第3節 情報システムの評価と改善 第4節 情報システム開発と法規 第6章 手続き型言語を用いた情報システムの開発 第1節 情報システムの開発演習① 第2節 情報システムの開発演習②	・プロジェクトを成功させるためのプロジェクト管理の意義及びプロセスについて理解するとともに、具体的な手法を理解する。 ・情報システムを正しく評価する意義・手法を理解させるとともに、システム使用外の対策について理解する。 ・ソフトウェアにかかる著作権とライセンス管理について理解する。また、セキュリティ管理の意義と法規について理解する。 ・これまで学習した各種知識を活用し、実際に売上集計システムやワークシートを活用したシステムが開発できるようにする。		
	3 学期	第7章 オブジェクト指向型言語のプログラミング 第1節 オブジェクト指向型言語 第2節 UMLによる図解表現 第3節 オブジェクト指向型言語を使ったアプリ開発	・携帯型情報通信機器用ソフトウェアの特徴、及びオブジェクト型言語の特徴を理解する。 ・UMLの内容と特徴について理解する。 ・Javaの変数の使い方を理解し、各種命令文の意味と利用方法を雌雄得することで、アプリ画面を作成する方法を理解する。		
観点別 評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つプログラムと情報システムの開発に関する知識と技術を身に付けている。	プログラミングをはじめとしたさまざまな知識、技術を活用して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見しようとしている。また、最適な解を導き出し、よりよく解決するための力を身に付けている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自らプログラムと情報システムの開発について学ぶ態度を身に付けている。また、組織の一員として自己の役割を認識し当事者としての意識を持つことで、積極的にかかわる態度を身に付けている。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	プログラミング	単位数	3
学年	2年	類型	情報ビジネス科A類型		
教科書(出版社)	プログラミング(東京法令出版)				
副教材(出版社)	全商 情報処理検定模擬試験問題集(プログラミング1級)(実教出版)				
授業の概要	ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、プログラムと情報システムの開発に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことで、組織の一員としての役割を果たす能力と態度を身に付ける。				
授業の目標	1 プログラムと情報システムの開発について実務に即した体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的根拠に基づき創造的に解決する力を身に付ける。 3 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協同的に取り組む態度を身に付ける。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第4章 手続き型のプログラミング 第4節 配列の利用 第5章 プログラムと情報システムの開発 第1節 情報システムの開発手順とシステムの開発	・配列を利用した各種のプログラミング技法を身に付けるとともに、マクロ言語によるプログラムで実装する方法を理解する。 ・情報システム開発の手順の全体像を理解し、テストの流れと開発手法について特徴を理解する。		
	2 学期	第2節 プロジェクト管理 第3節 情報システムの評価と改善 第4節 情報システム開発と法規 第6章 手続き型言語を用いた情報システムの開発 第1節 情報システムの開発演習① 第2節 情報システムの開発演習②	・プロジェクトを成功させるためのプロジェクト管理の意義及びプロセスについて理解するとともに、具体的な手法を理解する。 ・情報システムを正しく評価する意義・手法を理解させるとともに、システム使用外の対策について理解する。 ・ソフトウェアにかかる著作権とライセンス管理について理解する。また、セキュリティ管理の意義と法規について理解する。 ・これまで学習した各種知識を活用し、実際に売上集計システムやワークシートを活用したシステムが開発できるようにする。		
	3 学期	第7章 オブジェクト指向型言語のプログラミング 第1節 オブジェクト指向型言語 第2節 UMLによる図解表現 第3節 オブジェクト指向型言語を使ったアプリ開発	・携帯型情報通信機器用ソフトウェアの特徴、及びオブジェクト型言語の特徴を理解する。 ・UMLの内容と特徴について理解する。 ・Javaの変数の使い方を理解し、各種命令文の意味と利用方法を雌雄得することで、アプリ画面を作成する方法を理解する。		
観点別 評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つプログラムと情報システムの開発に関する知識と技術を身に付けている。	プログラミングをはじめとしたさまざまな知識、技術を活用して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見しようとしている。また、最適な解を導き出し、よりよく解決するための力を身に付けている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自らプログラムと情報システムの開発について学ぶ態度を身に付けている。また、組織の一員として自己の役割を認識し当事者としての意識を持つことで、積極的にかかわる態度を身に付けている。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				